

データ活用の技術・演習問題解答

演習問題 1 解説

分析のカテゴリとなる項目が質的項目、
分析対象数量の項目が量的項目になります。(下の色分け参照)

No	項目の分類	項目名	項目タイプ
1	JOB 情報	JOBNo	数値
2		JOB期間(開始)	日付
3		JOB期間(終了)	日付
4		JOB担当者	文字
5	受注・売上情報	受注No	数値
6		主管部門	文字
7		得意先	文字
8		受注件名	文字
9		受注担当者	文字
10		受注部門	文字
11		業務区分	数値
12		受注明細No	数値
13		得意先納品予定日	日付
14		得意先納品日	日付
15		請求ステータス	文字
16		請求変更ステータス	文字
17		費目名称	文字
18		費目補助	文字
19		種別	文字
20		受注税コード	数値
21		受注通貨	文字
22		売上計上日	日付
23		受注金額	数値
24		値引額	数値
25	売上高	数値	

No	項目の分類	項目名	項目タイプ	
		質的項目		
		量的項目	その他は、基本的に分析では使わない。	
26	発注情報	発注書No	数値	
27		発注明細No	数値	
28		支払ステータス	文字	
29		支払変更ステータス	文字	
30		発注件名	文字	
31		発注担当者	文字	
32		発注部門	文字	
33		発注費目	文字	
34		発注種別	文字	
35		仕入先	文字	
36		前渡金フラグ	文字	
37		勘定科目	文字	
38		発注税コード	数値	
39		発注通貨	文字	
40		発注金額	数値	
41		手数料額	数値	
42		損益情報	利益額	数値
43			利益率	数値
44	会計情報	会計伝票番号	文字	
45		伝票タイプ	文字	
46		伝票日付	日付	
47		原価センタ	文字	
48		会計費目	文字	

※計算で求められる率を
数値項目として使うことはほとんどない。

演習問題 2 解説

相関関係を調べるための項目を前述のデータから抜き出し、中間モデルを経由して分析用データモデルを作成するための手順を書き出す。

※発注金額=仕入額です。

手順の記述イメージは、以下の通り。

【分析手順】売上と仕入の相関関係を調べる

1. 分析目標の設定

毎月の仕入先毎の仕入額が、毎月の売上に比例しているかを分析する。

2. 分析用データモデルの設定

年月	仕入先	仕入額	売上額	仕入額比率額
----	-----	-----	-----	--------

3. データをExcelで加工する

①月毎の売上額を集計

年月	売上額
----	-----

②月別仕入先別仕入額を集計

年月	仕入先	仕入額
----	-----	-----

③上記②のデータの後ろに売上額を結合（年月単位に結合）

年月	仕入先	仕入額	売上額
----	-----	-----	-----

④Excelマクロにて仕入額比率額（=仕入額/売上額）を算出

年月	仕入先	仕入額	売上額	仕入額比率額
----	-----	-----	-----	--------

4. Excelでグラフ化